

P8311097 月分 6.JPG 2020/05/04

元治元年二月廿日より元治元年二月廿二日まで

P8311097 right

前□神速丸御船見分として太左衛門並びに御目付方支配向き等一同相談の上処、御船乗組のものにも役の乗組は迷惑の様子、且御船に差支え有し様見受到付、一同相談の上御船は引船に頼む積り、一決いたし候旨、清作共来り申聞く、右御船乗組箱館奉行支配調役所教授方出向武田斐三郎(※)同手附出向梨本徳太郎尋問に来る面晤し慰勞として二方肴料を投ず、代官鳴海金六尋問す、旅宿主人善蔵□□夫れより船中慰めとして練羊羹一管を贈らる酬うるに□水晶数珠二連を以てす右主人より家来へ一書を需る趣に付、代りて一斤の短冊へ墨を染む、旅中の一興也○自戒在位易牽戸素譏江湖況又有危機千鈞君命如無就男子何顔豈得帰

廿三日 午 晴

朝四十四度(摂氏6.7度) 昼五十二度(摂氏11.1度)

P8311097 left

昨日までは此方一行の荷物取片付方並会津船手方の用意等に日を消、昨夕既に荷物は船積いたし本日は乗組の積り有し処、出帆の風模様無し差支え旨、右船手より申出る、当所着当処より今に至り、

朝餐は必ず、精進の調味にて魚類を殆どもちひず、且毎餐大抵糧品を新にす用意尋常ならず、茶菓も日々新に盛り替えに付、再三断り奉り候えども、領主より手当にあるよしにて何分

受不申、待遇の厚き知るべし、船奉行某尋問に来る、同役薄田又三郎来り渡海都合

の儀□申聞る此方にて今朝勘考ありし如く神速丸御船を以て、永宝丸船を牽引の策なり同所の儀に付、江連よりも相談として家来さし越す、代官鳴海謙六弁当扱、中田左衛門、其外給仕船頭水夫共総

夫共総人数三十拾一人永宝丸へ乗組旨、右謙六申し立てる、本日は乗船の賀なりとて旅亭主人(其の実領主なり)

より午飯の節硯蓋(てり焼鶏卵焼さしみ、海鼠□類識製)焼肴へかれる、蛸酒を添へたり、前船中乗組航海方手続の儀に付、太左衛門方へ周助を遣し□□せし、□夫れ是行違える事

は \*1 武田斐三郎(たけだあやさぶろう) 箱館五稜郭(慶応2年完成)の設計・築城監督者、役職

(内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。